

交通・街の 移り変わり

寛永期（江戸時代初期の二十
年間）の宿
場は現在の
千住一丁目
から五丁目
でしたが、
千住大橋架
橋に伴い、
交通量の増
大や人口増
加によって
千住大橋を
越えるまで
拡大してい
きました。



「日光御街道千住宿日本橋類景之図」

千住は大都市江戸近郊に位置したこ
とをはじめ、陸路、日光道中と荒川（現
隅田川）の舟運の交差点となったことか
ら、宿場と河岸場、そして市場の機能を
有する農商都市となっていました。

発売！ 千住宿

とくべつ くま かわらばん
特別玖磨 瓦版

第2号



第2号で使われている浮世絵・写真の出典は「足立区郷土資料館収蔵資料データベース」
となっております。

足立・千住の文明開化

明治・昭和初期

江戸から「東京」の米どころへ



「ヤッチャバ」

明治以後の千住は、引き続き東京都心部への物資の集散地として繁栄を続けます。立地条件を生かした様々な問屋や商店が立ち並ぶことで貨幣経済の発達したマチバには、流通と娯楽に即した活気に満ちた生活文化が形成されていました。

「江戸の米どころ」と称され

た足立区域の稲作も、地域が開けるとともに、次第に衰退していきました。その後、江戸の街の近郊という地の利を生かして行ってきた畑作物の栽培に力をいれ、狭い土地でいかに換金性の高いものを作るか、都市の人々を対象にした農業や産業が盛んになっていきました。



「大祭記念 千住青物市場 大神輿 仮屋」

北千住という地名は存在せず

鉄道より先に千住馬車鉄道が開業します。客車を一台ひいた馬がのんびりと旧街道上を行き来していたが、東武鉄道が開業すると客数が減少し、廃止となりました。北千住という名称が使われたのは、北千住駅が開業した時からで、足立区の人口が爆発的に増加したことで、鉄道が担う役割も都市間交通の担い手から、大東京の都市機能の一部へと変貌してきます。一八九六年・九九年と相次いで開通した常磐線と東武鉄道伊勢崎線はいずれも物資・人員の輸送に大きな影響を与えました。

足立で最初にバスが走ったのは一九二三年、千住大橋と千住五丁目を結んだ千住乗りあい自動車です。その後バス路線は増加し、一九三三年、東京に編入された時には東京市営バスを含めて八社のバス路線が走っていました。



「千住町 千住大橋 (大正5年頃の木造の千住大橋)」

革新時代

昭和・平成初期

交通篇

特別なものであった「汽車に乗る」が、次第に一般の生活の一部となっていくたのは、足立区が東京市に編入する昭和の初めの頃だそうです。昭和中期になると、足立区の風景と交通網は大きな変化をむかえます。



「千住大踏切を走る機関車」

千代田

一九六九年三月に常磐線
を走る蒸気機関車が廃止、
千代田線が十二月開通し、
一九七四年には東武鉄道の
高架複々線化が進められ大
量輸送が可能になりました。

日比谷

一九六一年三月に地下鉄日比谷線が開業し、翌年の一九六二年に東武伊勢崎線と地下鉄日比谷線が相互乗り入れを開始。その後、中目黒まで全通することで、足立区は都心と直結することになりました。相互乗り入れ開始後、伊勢崎線の沿線開発が進み、乗客は年10%のペースで増加していきました。また、伊勢崎線の乗客の63%が北千住経由で日比谷線を利用していると言われ、混雑緩和が課題とされていきました。



「地下鉄9号線(千代田線)の開通」

そして現在、駅舎を三階建てにする立体化大改良工事が一九九七年に完成したことで、混雑は大幅に緩和されたのでした。



「北千住駅」

街篇

「昭和四五・一九七〇年の足立区 千住新橋上から千住の中心街を望む」



「高層都営住宅の建設」

一般に人々に自動車が普及するのは、国民車といわれる手頃な自動車が製造される昭和三十年（一九五五年）代のことです。以来、自動車の需要は爆発的に伸び、それに伴い道路の整備が急速になりました。



自動車の台頭により、道路整備・区画整理が行われ、田畑だった土地に街が形成されていきます。さらに環状七号線の建設により、かつて東京都心部の周縁であった足立区域が東京に組み込まれ、その外側に周縁部分を形成したことを示しているといえるでしょう。その後、農地が多く宅地開発の容易であった足立区は、東京都心部へ通勤する人々のベットタウンと化しました。



「千住地域の高層化」



昭和四十年（一九六五年）代にはいると、公園、集会所、保育園など各種の生活に必要な施設を備えた団地が造営されていきます。同様に一般住宅も増加していきました。以後区内の人口は急激に増加し、

学校などの多くの施設も建てられました。

千住宿から足立区へ

東京東部を囲む河川は、都心部から伸びる交通網の発展を阻む原因のひとつとなっていました。昭和三十年代から、都心から伸びる道路を繋ぐ橋が多数建設され、築年数を経た木造の橋は、鉄橋にかけ替えられました。こうして続々と大量の車両が区内を通過するようになり、交通便利な地域に、人々や物資が集まりそこに街が自然形成されていきました。かつて江戸の時代では街道の宿が、現代は、鉄道の駅がその中心となっています。区内に公営住宅が建設され、さらに人が集まり、商店や銀行、学校などができ、住宅を中心とした新しい街として、現代の足立区となったのです。



「千住大橋」